

劇場による総合的な人材育成・国際発信プロジェクト【世田谷パブリックシアター】

目的
目標

将来国際的な活躍が期待される気鋭の若手クリエイターの育成を軸として、5年間で集中的に複数のプログラムを実施し、次代を担う若手のダンサーやスタッフ、劇場職員等の多面的な育成を図る。稽古場、作業場等を備え、演劇作品をトータルに創造することが可能な当劇場の特性をフル活用した、劇場ならではの総合的な人材育成事業を展開する。国際的に活躍する人材を輩出し、人材育成拠点としての劇場の機能強化を図るもの。

概要

当劇場の芸術監督（演出家）、アートマネージャー、プロデューサー等が指導にあたり、指導者と育成対象の若手クリエイター等が国内外で共同作業を行い、その過程でOJTによる育成を図るほか、育成対象者を中心とした演劇作品を当劇場がプロデュースし、国内外で発表を行うことでより実践的な育成計画とする。出演者、スタッフにも若手を積極的に起用し、舞台芸術に携わる様々な職種の人材育成を同時に図る。また、英国の気鋭の劇作家や劇場との国際共同制作から作品開発の手法を学ぶとともに、その成果を国内外で行う公演により発信する。

3年目までの取組

- ・本プロジェクトにおける若手クリエイター（俳優等）を選抜するためのワークショップ・オーディションを行う。2年目には若手クリエイターを中心としたワークショップおよびその成果発表としてリーディング公演を行う。さらに3年目には若手クリエイターを中心とした新作を創作・上演する。
- ・英国と日本の若手クリエイターを中心とした協働により、4年目以降の上演を視野に入れてワークショップを実施する。
- ・白井晃芸術監督演出による新作を上演する。創作過程におけるOJTにより若手クリエイターの育成を図る。
- ・当劇場の過去のプロデュース作品をデジタル・アーカイブ化し、海外に向けたプロモーション等に活用する。



世田谷パブリックシアター 撮影：細野晋司

5年目までの取組

- ・芸術監督演出によるレパートリー作品を国内再演し、海外ツアー公演（韓国他調整中）を行う。再演のクリエイションに若手クリエイターが参加し、OJTによる育成を図るとともに、海外公演の経験を積む機会とする。
- ・韓国や東南アジア地域の劇場・演劇人と人材育成分野での交流を図り、ネットワークを強化する。
- ・日英共同制作により作品開発を進めてきた新作を英国および国内で上演する。
- ・5か年計画の集大成として若手クリエイター等を中心とした公演を国内外で行い、その成果を広く発信する。

中核となるアドバイザー

白井 晃

早稲田大学卒業後、1983～2002年、遊○機械/全自動シアター主宰。14年4月、KAAT神奈川芸術劇場アーティスティック・スーパーバイザー（芸術参与）に就任。16年4月～21年3月、同劇場の芸術監督。22年4月、世田谷パブリックシアター芸術監督に就任。第9・10回読売演劇大賞優秀演出家賞ほか受賞。本プロジェクトにおける若手クリエイター等のメンターを務める。



育成対象者：25人（予定）

【主な育成対象者：3人（ジャンル：演劇）】

演出家1人、翻訳家・俳優1人、劇作家・演出家1人

※これまでの活動実績や将来性、本プロジェクトとの相性などを総合的に考慮して主な育成対象者を選定した。

※そのほか俳優、ダンサー、スタッフら多様な職種の若手クリエイターをワークショップ・オーディション等を通じて選考を行う。

国内公演【計3回】

- ・若手リーディング公演（2025年）
- ・若手新作公演（2026年）
- ・芸術監督作品（2026年）

海外公演【計3回】

- ・芸術監督作品@ソウル（韓国）（2027年）
- ・日英共同制作公演@ロンドン（英国）（2027年）
- ・若手新作公演@ソウル（韓国）（2028年）ほか

成果目標（見込）

目標値

文化施設の公演活動に対する専門誌・専門家・批評家等による評価数（高評価）

6件

デジタル作品（デジタル・アーカイブ化含む）の発信数

4件

本事業計画に参加あるいはアドバイスをいただく海外のクリエイター等の数

12人

海外クリエイター等をアドバイザーとして行う育成事業数

3事業

補足資料（体制図）

